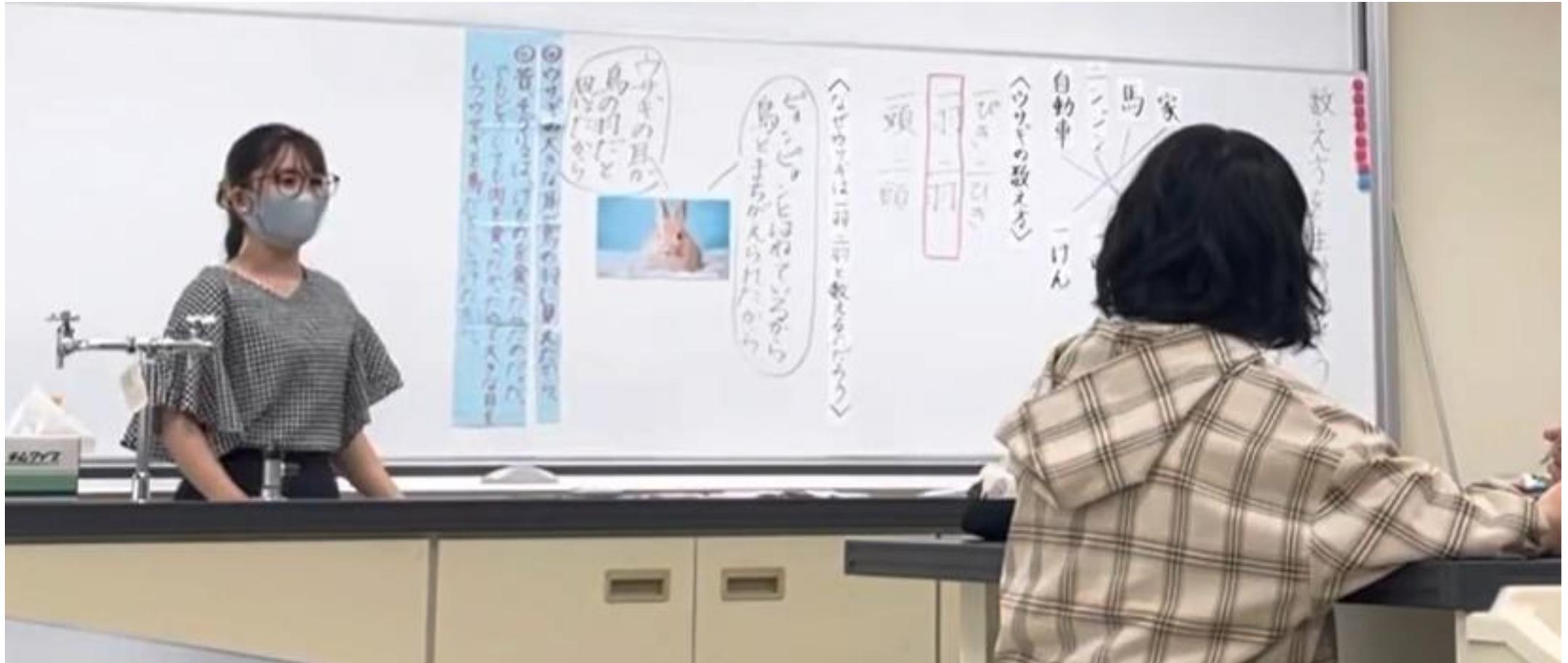
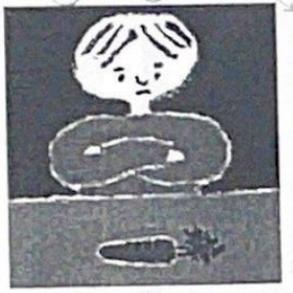


模擬授業①

「数え方を生み出そう」



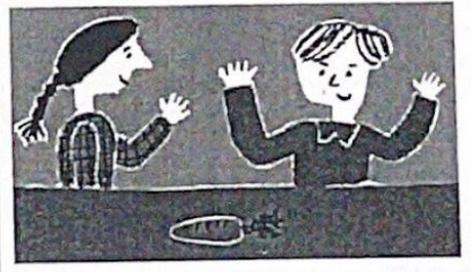
① つくえの上にニンジンがあるとしましよう。あなたはそのニンジンをもどように数えますか。おそらくだれもが「ニンジンが一本あります」というように言うと思います。「一本」の「本」からです。



② 日本語では、物を数えるときに数だけを使うのではなく、数の後ろに「本」や「まい」などの言葉をつけて表します。「このような数え方をすることによって、それがどんな物であるのか、話し手はそれをどうとらえているのかということも、相手に伝えることができます。」

③ でも、なぜあなたはニンジンを見たとき、まずその細長さに注目したのでしょうか。ニンジンには細長いだけでなく、固くてオレンジ色をしているという特徴もあります。また、人によっては好き嫌いがあるでしょう。日本語を使って生活している人たちは、そういった細長さ以外の持ちようや好き嫌いには注目することなく、ニンジンは「一本」と数えているのです。

④ これはあたりまえのように感じるかもしれませんが、しかし、日本語を外国語として勉強している人たちにとっては、大きなおどろきなのです。わたしはアメリカで、日本語を勉強している小学生に数え方を教えたことがありますが、子どもたちは授業でしばらく日本語を学んできましたが、ふだんは外国語で生活しています。ある日、わたしはこれらにニンジンの数え方を聞いてみました。正しい答えは「一本」なので、それを期待していたのですが、あがった声は意外なものでした。子どもたちからは、



「ニンジン」は固くてガリガリかじらなくちやいけいから「ニガリ、ニガリです」。「ちがいます。オレンジ色をしているから、ニンジンは「ニオレンジ、ニオレンジ」だと思えます。」

「ぼくはニンジンが好きだから「一好き」、二好き」がいいと思う。」

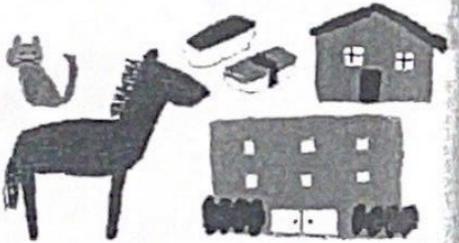
⑤ とはいえ、それらは日本語の数え方としてはまちがっているのですが、わたしは、ニンジンの数え方は「一本」ですと説明しました。するとそのとたん、みんなとても不思議そうな顔をしました。ニンジンを見て、細長いという特徴をみただけを数え方のもとにする発想は、われらにはなかったからなのです。

⑥ 日本語の数え方は約五百種類もあると言われてます。それらの多くは、物の形に注目したり、生物と無生物と別の言い方をしたり、乗り物や道具などを表すときに用いたりする言葉です。例えば、えん筆などの細長い物なら「一本」、紙や板のように平べったい物なら「一まい」、ネコのように小さな動物なら「一びき」、石のような無生物なら「一こ」、自動車などの乗り物なら「一台」といったくあいを使い分けています。これらは、わたしたち日本

⑦ 人が数える物をどう見ているかを決める役わりを果たしています。日本語を正しく使うために正しい数え方を身につけることは、とても大切です。しかし、それはわたしたちのものの方をせめてしまいうこともあります。ニンジンを見てもえん筆を見ても、それらを「本」と数えるときには細長いという持ちようにしか目が行かなくなるのです。

⑧ 改めて気づくのは、日本語の数え方には色やにおい、固さや手ざわり、温度、味、古さ、好き嫌いなどを表すものがないということです。もし、こういった持ちようを表す数え方が生まれたら、日本語はもっと便利で表情ゆたかになるかもしれません。数え方は、今あるものを正しく覚えて使うだけでなく、新しく生みだすことだってできるのです。そんなことができるのかと思ふかもしれませんが、このような例は、日本語の歩みの中ではめずらしいことではありません。

⑨ 例えば、馬のように大きな動物を数える「一頭」は、明治時代に新しく生まれたものです。海外の本に書かれていた、動物を数える「ヘッド」という言葉を、日本の学者たちがヒントにしたのです。「ヘッド」は、英語で「頭」の意味で、動物の頭数を数えるときにせん門家たちが使っていました。それまでの日本語では、馬でもネコでも「一びき」と数えていたので、動物の大きさのちがいを数え方で区別するのは、新しい発想でした。



⑩ その後にも、数え方は生まれ続けています。家は「一けん」と数えますが、マンションなどの大がたの集合住たつ場合には、「一どう」と数えることが多いようです。近年は広告などで、「一てい」というような建物を連想させる「一てい」という言葉も使われています。にぎりずしの「一かん」も、記録によると、江戸時代からあるのではなく、にぎりずしをおいしように数えるために、昭和時代の終わりに生みだされたものようです。

⑪ このように、数え方は、いろいろな発想をもって生みだすことができます。これまで受けつがれてきた言い方を正しく使っていくことは、もちろん大切ですが、「一方で、新しいものを生みだせるという、言葉のじゅうなんさにも目を向けることが大切です。」

⑫ あなたも、数える物の持ちように注目して、友達と新しい数え方を考えてみませんか。そして、そのおもしろさや使い方について話し合ってみましょう。もしかしら、あなたが大人になるころには、その数え方がみんなに広がっているかもしれません。

⑦ 日本語を正しく使うために正しい数え方を身につけることは、とても大切です。しかし、それはわたしたちのものの見方をせばめてしまうこともあり
ます。ニンジンを見てもえん筆を見ても、それらを「本」と数えるときには
細長いという持ちようにしか目が行かなくなるのです。

⑧ このように、数え方は、いろいろな発想をもって生みだすことができます。

これまで受けつがれてきた言い方を正しく使っていくことは、もちろん大切
ですが、一方で、新しいものを生みだせるという、言葉のじゆうなんさにも
目を向けることが大切です。

⑨ あなたも、数える物の持ちように注目して、友達と新しい数え方を考えて
みませんか。そして、そのおもしろさや使い方について話し合ってみましょ
う。もしかしたら、あなたが大人になるころには、その数え方がみんなに広
がっているかもしれません。

単元計画

	い。		と。
三	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の述べていることに対して、思ったことを話し合う。(1) ・自分なりに考えた新しい数え方について理由をつけて考える。 (2)[本時] ・新しい数え方をもとに、筆者の考えを話し合う。(1) 		ノート・発言 ①筆者の主張・提案を捉える ②新しい数え方を考える ③筆者の主張に対する考えをもつ ④考えを交流する
四	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語の数え方について自分の考えを書く。(1) ・意見を交流し合い、友だちの意見との共通点や相違点を見つける。 	ひとりよがりになる。	相手の見直しをもつて、感じたことや考えたことを共有しながら、自分

授業の展開

数え方クイズ

→ウサギの数え方

→由来

→ウサギの数え方を考える

(10分 タイマー)

→全体交流

→ふり返し

次は一人一人新しい数え方を考える

◎明るさ

◎テンポ

◎言葉がはっきり伝わる

◎板書の見やすさ

◎みんなに返す

「ウサギさわったことある？」

気になった点

- ・ 起立・礼・着席
- ・ 「発表してくれるよっていう人」「みんな手を挙げてくれてた」
→自分の考えを伝えようという姿を褒める
- ・ 「どうですか」「いいです」（子ども役）・・・どういうところが？
- ・ ふり返りが浅い（子ども役）
「一つものでもたくさん数え方があったことが分かって楽しかったです」
「友だちの考えた数え方がおもしろかったので活動が楽しかったです」

どんなふり返りを期待する？

こんなふり返りを期待する

「私たちのグループでは、ウサギの数え方を考えました。私はウサギの耳が長いところから『1ミミ』と数えたけど、〇〇さんはウサギの毛がふわふわしているから『1ふわ』と数えていました。見方がちがうと数え方がちがって面白いなと思いました。」

「ぼくたちはライオンの数え方を考えました。『1ガオ』とか『1ライ』、『1ふさ』など、面白い意見がたくさん出ました。でも、トラも『1ガオ』でよさそうだし、新しい数え方を作り過ぎるとどれがどれだか分からなくなって困ると思います。」

批判的思考を働かせて読む力

自分なら・・・

数え方クイズ

- ウサギの数え方
- 由来
- ウサギの数え方を考える
(10分 タイマー)
- 全体交流
- ふり返し
次は一人一人新しい数え方を考える

筆者の主張・提案

- 筆者の示す例（ニンジン）
- グループごとに新しい数え方を考える
- ふり返し
次は筆者の主張に対する考えを話し合う

ロイロノートを活用するなら・・・



模擬授業②

「人の体のつくりと運動」

人の体のつくりと運動

めあて

うでの中がどのように
なっているのか考えよう

Q1 うでの中はどつなっている？

- ・うでの下がやわらかい
- ・手首とひじがコリコリしている
- ・うでの横がかたい
- ・うでをのばすと平面
まげるとなにか出てくる



授業の展開

前回のおさらい（ビニル手袋）

「先生腕はどうなっているのという声があったので」

→めあて「腕の中はどうなっているのか考えよう」

→腕の中はどうなっているのか気付いたことを

プリントに書く（5分 タイマー）

→交流

→腕の中はどのようなになっているのかを

絵にかいてみよう

◎机間指導

◎板書の字の大きさ

◎字の読みやすさ

◎道具の準備

気になった点

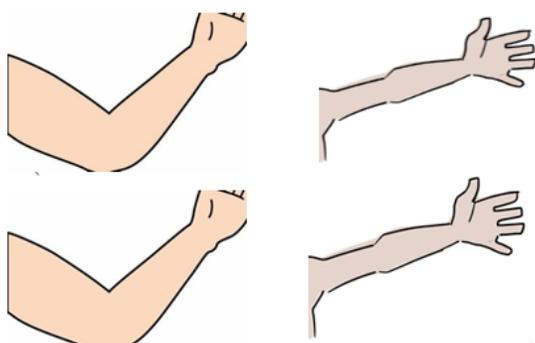
- ・ 起立・気を付け・礼！
- ・ タイマー
- ・ 道具をどう使わせたかったのか
トング 折りたたみ定規
粘土 ストロー

(3) 板書計画

人の体のつくりと運動

うでの中がどのようなになっているのか
を絵に描いてみよう！

うでをまげたとき うでをのばしたとき



めあて
うでの中がどのようなになっているのか
考えよう！

うでの中はどうなっている？

- ・ 曲がらないところはつるつるして長い。
- ・ 曲がるところはでこぼこして短い。
- ・ 曲がるところはかたい。
- ・ 曲がらないところはやわらかい。
- ・ ひじの部分がでこぼこしている。

今日の学びのふり返し

うでが曲がるためには、きん肉と関節と
ほねが必要である。

- ・ めあての出し方 子どもが「スイッチオン」になっているのか

子どもが自信が問いをもって学ぶ授業にするには？

自分なら

①手にある関節を確かめよう（おさらい）

→たくさんあるからものを握ったり楽器を弾いたりすることができる

②肘を曲げずに字を書いてみよう（またはお茶を飲んでみよう）

→難しい！普段は無意識のうちに肘を曲げたり伸ばしたりしていた

→よく見ると筋肉も動いている　力こぶをつくるとかたくなる

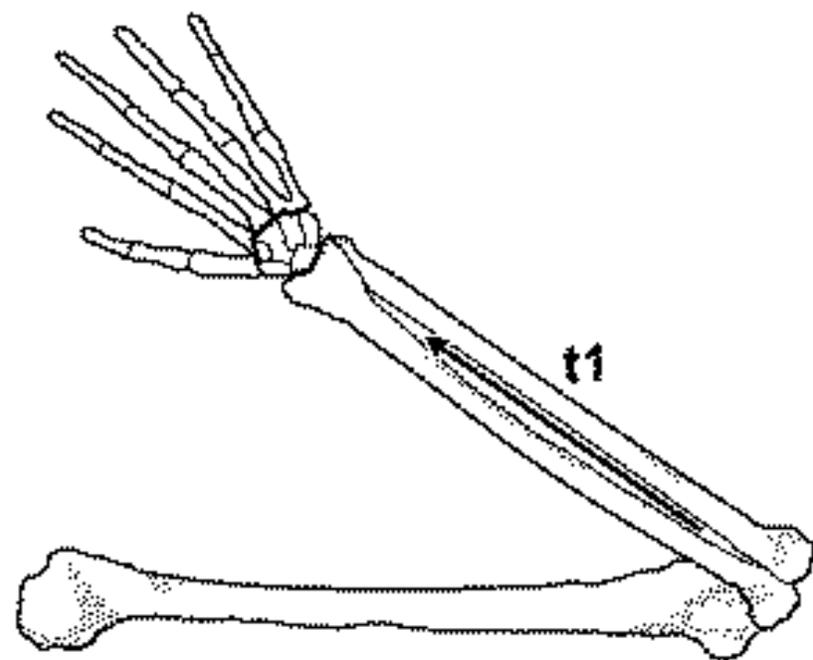
③腕の曲げ伸ばしの仕組みは？

→骨だけ見せる（骨格模型）

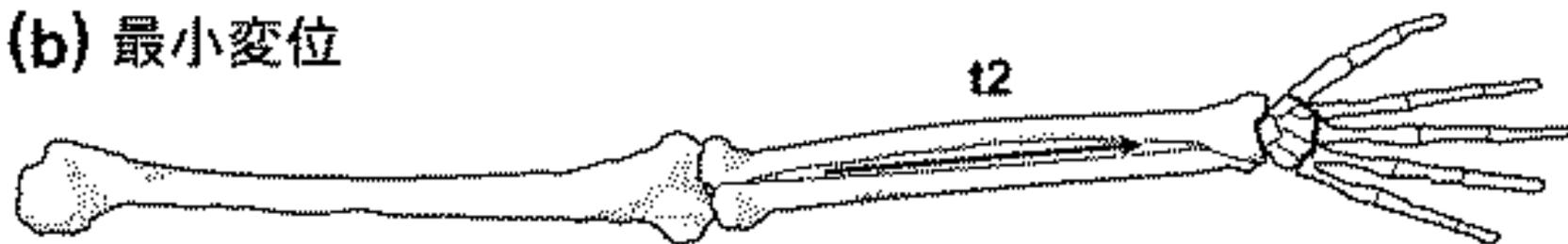
→どこに筋肉をつければ肘を曲げたり伸ばしたりできるかな

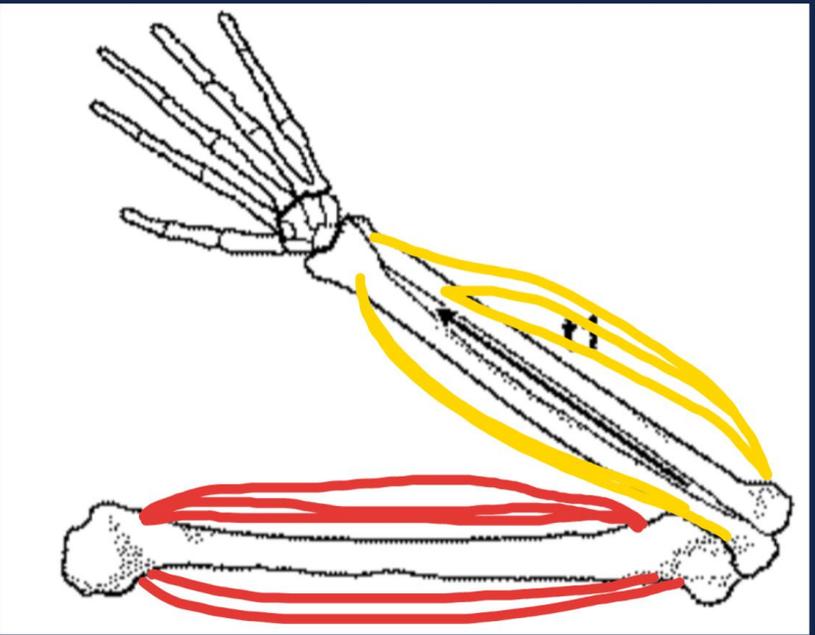
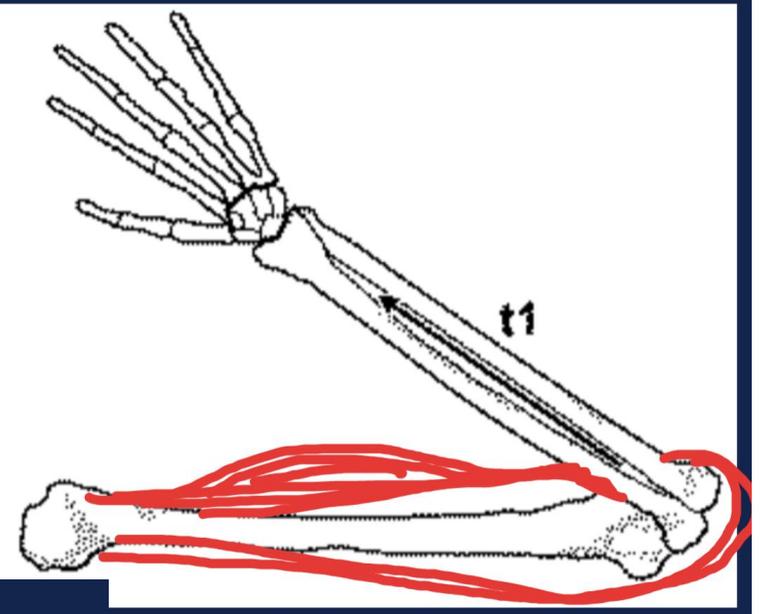
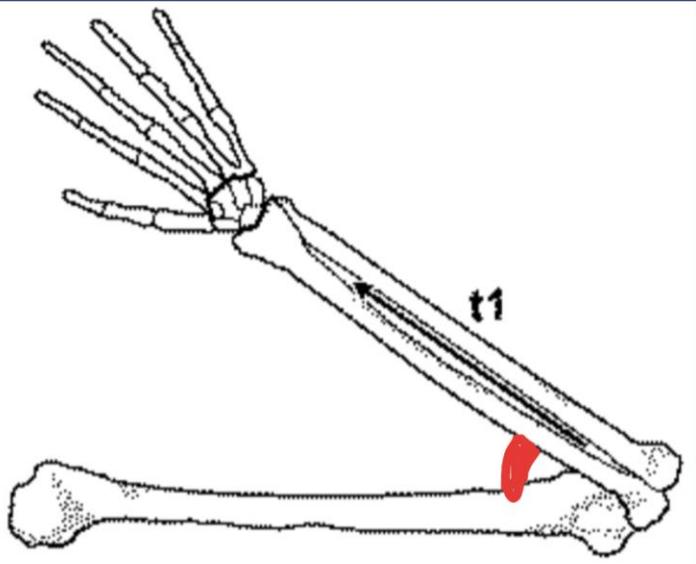
④関節模型（または動画）で確かめよう

(a) 最大変位



(b) 最小変位





抑揚をつけて話すには

ドラマ

お笑い

映画

→自分が演じてみる

